

(豊平地区) パートナーシップのまちづくりについて

意見要旨	説明・回答要旨
<p>塩之目に移住してきて、とても良い市だなと思っている。市長が先ほど、何もしないままでしたらもっと悪くなるだろうと言っていたことにすごく共感を受けた。移住してきた20年前の茅野市のパートナーシップのまちづくりを聞いてすごいなと感じたが、今は、2, 30年前からやってきたことはこれからの未来のためにパートナーシップに投資してきたのではないかと思っている。財政的な問題については、今団塊の世代になる50歳が70歳になる20年後くらいまではパワフルな人がいると思うが、30年先を考えていくべきなのではというイメージを持っている。その中で教育への投資はすごく重要で、子どもが少なくなったというのは実は集約していくチャンスなのではないかと思っている。</p>	<p>(市長) 茅野市の市民活動は第1ステップを終えたという認識を持っている。当初は市側で市民の皆さんにお願いをして、ごみの分別収集を始める時に、収集の指導など皆で行ったりした。市民の側からすると、受身のボランティア活動が多かった印象だが、次は自ら考え行動するステップに行かなければならない時期に来ており、市民が活動をしたい時に行政にサポートをお願いするといった形に変化していく時期を迎えていると思っている。例えば蓼科湖畔で道の駅を作った時は、新しいコンセプトの道の駅を作りたいという若い人達が出て、それを実現するために、一般的な道の駅、いわゆる野菜を直売する建物があったりするものを作りたいという自治会の人と話し合いを重ね、今は結果として新しいコンセプトの道の駅で蓼科BASEやエイトピークスといったお店ができて若い人が集まり、地元の人と一つになって、色々な事業が始まっている。また、そのお店を作るための補助金は国から半分出ており、行政が補助金申請業務をサポートしている。駅前でも同じような状況が起きつつあり、市外から来た若者と地元の若者が一緒に「蔵市」というイベントを去年からやっている。商店街の人達も様子をうかがっていたが、今年は積極的に関わっている。こういった現象が色々なところで起きてほしいと思っている。地元の人達だけで考えていると、従来通りにやり続けることが目的となり、本来の目的を見失ってたまま、行政がそこに補助金を出しているというところが幾つもある。そういったモノの考え方ややり方を変えていく時期なのかなと思っている。学校を大きくした方が良いのではないかということについては、茅野市は中学校4校でしっかりと教育ができていますので単純に考えれば小中一貫校として4校で対応できるということになるが、そこは議論が必要だと思う。茅野市の教育をどのようにしていく事が良いのか、茅野市全体として議論する時期にきていると感じている。また、人口を増やすための事業も進め、企業誘致をして社員が移住してくれば、子どもの数も増えてくる可能性がある。総合的に政策を考えていきたい。できれば2年くらいで大枠の計画を作りたいが、3年ごとにチェックするなどし、その時の状況にあったものに見直しをかけていきたいと考えている。</p>

(豊平地区) 行財政改革について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>公共施設について、10年間で290億円かかるということだが、もう少し具体化して、各施設それぞれかかる費用など示してほしい。また、行財政改革の基本方針として、コミュニティセンターの人員配置については、豊平地区はコミュニティセンターを重要な役割として一緒に勉強もしているの、職員の数が現状より増えない中であれば事務処理の効率化を図ってほしいと思う。収入の中で借入れをして財源にしているという話もあったが、市税は後から入ってくるお金なので、借金をして使えるお金を用意し、後から税金で補てんするという考えでよいかと思う。給食費の無償化の話についても、一律ではなくそれぞれの家庭の収入により条件をつけた中で本当に必要な方に無償化をすべき。また、豊平地区の活動のお話をさせていただくと、豊平には「豊福の会」という福祉推進委員連絡会があり、地区での困りごとを吸い上げている。行政区で対応できない事の中で、特に福祉と防災については自助公助を大切にしながらやっていて、何でも行政に丸投げするのではなく、まずは自分たちでやってみようという事で議論し、何かあった時にはコミュニティ運営協議会を通して行政に流すようにしている。</p>	<p>(財政課長) 公共施設の改修費、約10年で290億円という数字をはじき出しているが、市が保有している公共施設を一定の法則に基づいてはじき出したもので、より精度を高めて見積りをする、おそらくこの金額では済まないと思う。もし機会があれば、そういった資料も今後の行財政改革の中で住民の皆さんに示すことができると考えている。</p> <p>(市長) 公共施設でいくと、例えば、茅野市民館は約10億円、運動公園のスケート場は約6億円かかり、いくつかの施設はもう修繕費が分かっている。運動公園で考えると、一番古い体育館の床を昨年直したが、天井が吊り天井のまま、防災拠点としてはよろしくないの、来年改修工事をしたいと思っている。その次には国体の野球が茅野市の野球場で開催されるため、野球場も直さなければいけなくて、その改修工事も何億円かかかる。他にもスケートリンクや温泉施設も設備が老朽化しているところが目白押しな状態である。</p> <p>地区コミュニティセンターの人員配置については、サポートをしないわけではなく拠点を作って、そこに人を配置することを考えている。例えば、職員は役所において、必要に応じて各地区を巡回したり、色々なやり方があると思っているので、相談できればありがたい。給食費の問題は全ての家庭とするか困窮している家庭とするか、今の給食の質を維持した形でできるよう、議論をしたいと思っている。いずれにしても、従来のやり方をそのまま続けて良い状況ではないので、今後も各地区をサポートしていきたい。</p> <p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) コミュニティ運営協議会については、平成18年から各地区で立ち上げていただいて今に至るわけだが、地区によって活動の温度差はある。パートナーシップのまちづくり自体を振り返る一環として、運営協議会のあり方についても皆様と一緒に検討をしていきたいという段階なので、一緒に話をしていきたいと考えている。</p>

(豊平地区) 区・地区における役員の成り手不足について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>塩之目区を例に話をさせていただく。塩之目は大体200戸以上の軒数があるが、区に入っている人が今150、160戸ぐらいで残り的人たちは区に入っていない。さらに新しく入ってきた人に役を申し付けると区を退区すると言われてしまう。新しく来た人たちにどうやって役を受けてもらうか考えているが、なかなかうまくいかない。あと、市からの役員の配り物が多くて、組長さんに月に1回配ってもらうが大変な負担であったり、お金とかも一人一人集めてもらったりすることも負担なのかと思っている。市の方でもう少し簡素化できないかということをしている。</p>	<p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) 役員の成り手不足は、殆どの地区で問題となっており、負担軽減をしてほしいという要望を受け、市では2月から負担軽減・担い手不足への対応について着手している。見直し事項としては、まず市からの依頼事項である配布物、役員の選出や市の団体への参加を抜本的に見直すことと、区・自治会役職業務の運営方法で、これは各区でやり方が千差万別だとは思いますが、負担になっているところがあると思うので、市でこうして下さいと言えるものではないが、一緒に考えていきたい。見直しの方向性としては、モデル区の募集をして、区の皆さんと一緒に解決策を考えていき、試行しての効果や課題を各地区の区長会で共有し、皆さんの改革の参考にしていただければと考えている。</p>
<p>一つの取り組みとして、入区が促進するように行政を絡める方法はあると思う。上古田区でも入区していない方に、防災について訓練、支え合いマップ、伝言ボードを配り説明をしている。最初は防災訓練に出ていなかった方も、気長にお支えをすることで出てくるようになってきた。やはり人と人との繋がりが大事だと思った。福沢区さんもアパートの住民と一緒に防災訓練をやっている。アパートの住民の皆さんとの交流を地道にやっている区もあるので、一つの方法としてあると思う。</p>	<p>(市長) 防災というのは皆がまとまることができる部分だと思っていて、市としても一生懸命やっている。特にこれからは高齢化問題があるので、障害を持つ方や高齢の方の個別避難計画作成に取り組み始めている。</p> <p>(地域福祉課長) 個別避難計画の話が出たが、米沢の塩沢区で民生児童委員の皆様と計画を進めている。こちらをモデルとして検証をして、こういったところに課題があるのかの整理を進めている。それと関連して、米沢地区で9月に福祉避難所の開設訓練を行い、塩沢区の方も避難をして来られた。そういったところも実体験を含めて、より地域に合った個別避難計画になればと思い進めている。</p> <p>(市長) 今はまだモデルケース的にやっているが、これから全市的に広げていければと思っているし、以前の総合防災訓練では北部中学校に協力をいただいて行った。</p> <p>(北部中学校校長) 今年度は生徒会を中心に、地域の公民館との関係を大切にした活動をテーマに掲げている。学校には地区生徒会というのがあり、それぞれの地区に地区長がいる。地区長メインに約30名参加させていただいた。生徒たちは初めて行う訓練に大変驚きながら、木造建築物が崩れたときにどんなふうになればいいか、防災テント、簡易用のテントをどのように立てたらいいかも含めて、色々考えながら活動をしていた。中学生はいざという時に頼りになる存在で、これからも機会があれば参加させていただく中で、地域をサポートできる人材になってもらいたい。</p>

(豊平地区) 区・地区における役員の成り手不足について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>区や自治会をやめる方が増えている話を聞いたことがある。高齢者の一人暮らしの方が区費も払えないし、出払いにも出られないから区をやめるとい話を聞いたときに驚愕した。区って高齢者の一人暮らしとか、そういうところで助け合いのために存在していると思っており、区・自治会はそもそも何のためにあるのかということをも根本的に考え直した方がいいのではないかと。行事や出払い、区費を賄うためとか、そういうところじゃないところを1回見つめ直した方がいいのではと感じた。移住者の方も区に入らないというのは、煩わしさを強く感じて、入区した時のメリットがあるのかわからないというのがあるかと思う。ごみを集荷場に出す、出さないというのは解決したと聞いたが、例えば区費を払わないと集荷場に出せず、集荷は市がやっているのにどうして出せないのか、という議論もあったが、区に入っている入っていないとかではなく、区に入っていないと不平等に扱われるみたいな感覚も疑問で、そこら辺からも考え、見つめ直すポイントではないかと思う。</p>	<p>(市長) おっしゃるとおりで、区に移住した方が皆区に入っていて、区長さんや区の役をやっている所もある。ごみも分別がきちんとできていれば良いが、外国籍の方が多い地域で比較的発生しやすい事案。地域によって起きやすいこと、起きにくいことがあり、一律に語れない部分がある。</p> <p>(副市長) 区は、もともとは江戸時代に相互扶助ということでみんなで助け合ってやっていた。高齢者、身体の弱い方を村で見るとか、1つの大きなコミュニティで扶助していたが、都市化してくる中で人間関係が希薄になってきて相互扶助の関係ができないから区から抜けてしまふところもあると思う。しかし、災害時や防災といったときに、ひとり暮らしの方にどれだけ見守れるか、手を差し伸べるかということが大事になると思うので、防災を切り口にもう1回、人と人の繋がりを作っていく必要がある。防災でも、個別の支援計画を社会福祉協議会など含めてやっている。もう一つ難しいのは、相互で扶助しているのでお互いに負担せずタダ乗りでいろいろやっているとコミュニティの中で難しいことが出てきてしまふ。そこをどこまで地域の中で許容できるかというのが一番大事ではないか。いずれにしても地域の中で人間関係を作って話をしていけないことには解決しない問題。</p> <p>(市長) 若い人たちが区に入る必要性をどう感じてもらえるか。理解してもらうには、防災が1つの切り口だろうと思っている。区を運営する側もこうあるべきという旧来の習慣から脱却して、皆で区の運営はどうあるべきか考える時期になってきている。市としてこうしなさいと言えない部分ではあるが、アイデアを紹介することはできる。寛容性を市民全員が持ちあわせ、他地域から来た方々を上手く受け入れ、若い人達が残ってくれるように、変えるべきは変えていかなければいけない時期だと思う。</p> <p>(パートナーシップのまちづくり推進課長) 補足をさせていただくが、今、皆様方の発言のとおり、区の負担軽減、担い手不足を検討していくには、根本的に区とは何か、区はあって当たり前だという感覚に切り込んで本質的な話をしないと答えがでないのではないかと思う。市でもモデル区を募集して負担軽減の試行的な取組みを検討しており、見直しの方向性ということで、モデル区の皆様、そして各地区の区長会の皆様と議論をさせていただいて解決の方向を探っていきたい。</p>

(豊平地区) 区・地区における役員の成り手不足について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>【区・地区における役員の成り手不足についての説明】</p>	<p>(副市長) まちづくりは人づくりだと思うので、パートナーシップのまちづくりを進めてきたことによって、まちづくりに関わる人がたくさん生まれてきて、それが大きな財産だったと思う。その方々が言うのは、次世代にそういった財産を継承していかなければいけない。しかし子どもたちは少子化で、同じやり方で自分たちのまちづくりのノウハウ、財産を継承していったら過剰な負担になってしまう。なので、やり方は変えていかなければいけないし少しでも軽減しないと、若い子たちがこの地域から逃げてしまう。市長もさっき申し上げたが、前例慣例を見直してなるべく楽にしていくことが必要だと思う。その1つにDX、デジタル化がある。DXによって時間を作り出す、ゆとりを作り出すことによって豊かさが生まれると思う。区の仕事もそうだと思うが、みんな忙し過ぎるので時間を作り出すこと、なるべく楽にすることで、ゆとりを持ってみんなが寛容になるし豊かなコミュニティ地域が生まれてくるのではないかと思っている。</p>
<p>人数ベースでは、40代50代は大勢いる。やりたい人がいなくなっている理由は、ゆとりなく忙しすぎて、PTAなど必要だとわかっているもやることのできないのだと思う。そこがすごく難しくデリケートで、負担軽減は正しいように見えるが、負担軽減していくからやらなくていい仕事になってしまうことも同時にあるので、これからの時代にどうしていくか必要性を考えるべきだと思う。あと、もう一つ、茅野市の講演会の中での、絆という言葉の説明がすごく印象深かった。大震災をきっかけに絆という言葉が非常に流行ったが、その意味は鎖で縛り合う、拘束し合うということで、都合のいい絆などなくて、日頃のわずらわしいお付き合いがあるから、いざというときに助けようじゃないかとなる。そういう意味では、こちら側からの新しい人への接し方も勉強しておかないと、新しい人はこちらを向いてくれないのではないかとも思う。市民だけに任せても難しいので良い方法を学ぶ事も必要。</p>	<p>【今後の取組の参考とさせていただきご意見】</p>
<p>どうしても負担軽減というところに行きがちだが、それで成り手が増えるのかは疑問がある。入口の壁は下がるかもしれないが、決まっていることだからやるしかないという役にしてしまえば全くやる気が出てこない。だけれども、どういうふうにやれば楽になるか、楽しくできるか、違うことができるのではないかとか、区、自治会が柔軟な発想でやり方を変えていけるようになれば、魅力のある役というのを見える形にしていくことも考えられると思った。</p>	

(豊平地区) 行財政改革について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>先日、長野日報に小泉山と多留姫の滝の委員会への対応が出ていた。アンケートに書いたので理由を返信願いたい。</p>	<p>(市長) 小泉山と多留姫の滝については、予算的には問題のない額であるが、行財政改革の中で一度検討しなくてはならない項目に入っている。市の事業のようになっている今のあり方を考えるという意味で改革項目に上がっているので、必ず止めるという話ではなく、小泉山周辺の各区の皆さんと話してどのようなやり方が良いのか検討していきたい。</p> <p>(行政経営係長) 金額の問題ではなく、地区の1つの行事として市がどう関わっていくのかというところを議論しているので、そういう観点で見てください。小泉山と多留姫を出しているが、こういった活動は他にもあるので見直しをしていかなければいけないと思っている。茅野市の職員も多数いるわけではないので、市職員との関わり方等も検討しているのでご理解をいただきたい。</p>
<p>承知した。</p>	

(豊平地区) 学校の統廃合について

意見要旨	説明・回答要旨
<p>初めてこの会に出席して、少々場違いな雰囲気を感じたが、おそらくその裏には、私のような年齢の女性がこういう会に参加するというのが、ちょっとハードルが高い現状があるのかなと思う。</p> <p>今日は教育について伺いたいと思ったので来た。小中学校の統廃合が想定されていると記事で読んだので、その際にはぜひ当事者、児童とその保護者の意見を反映させて欲しいと思う。教育長さん、校長の方々の意見も同様に聞けたらいいと思うので、ぜひそういう機会をパブリックコメント等でも良いのでお願いしたい。</p>	<p>(教育長)</p> <p>学校の統廃合は、行政の都合というよりも子どもを中心に考えていきたいと思う。今の子どもたちの学びがこのまま続いていくのか。例えば、少人数になってドッジボールができないとか、かつて豊平小学校では縄文の竪穴式住居を作ったがそういう活動もできない、或いは人間関係が固定されてしまう。そうした中で小さい学校を大きい学校にくっつけるとかそういう発想ではなく、市全体の子どもの学びをどうしていくのかを中心とする。その上で、どうしたら子どもたちのためになっていくかを地域の方、保護者の方々と一緒に考えていく。それと同時に子どもたちの考えも聞いて、みんなで作り上げてく統廃合を考えている。</p> <p>(市長)</p> <p>この問題は個別にきちっと対応していきたいと考えていて、大きな方向性は2年くらいかけて結論を出していきたい。行革も何でもかんでもすぐ止めるということではなく、茅野市には皆さんと議論する時間があると考えているので現状をお知らせさせていただいている。</p>

(豊平地区) その他

意見要旨	説明・回答要旨
<p>先日のマラソンに出場していた茅野市出身の女子選手について説明してほしい。オリンピックに出られるのではないかと思うので聞いてみたい。</p>	<p>(市長) 細田あいさんの件だが、長峰中学校出身で長野東高校へ行かれて、今エディオンで陸上部に入っている。この間の選考会マラソンで3位という成績であった。オリンピック選考対象となるレースが終わるのが3月だと思なので結果次第ということになるが、市としても応援していければと思っている。</p>